



「東工大立志プロジェクト」 書評のための課題図書



展示期間：2017年4月4日（火）～ 5月31日（水）

展示場所：附属図書館大岡山本館地下1階

東工大立志プロジェクトは、他人の言葉に耳を傾けることから始まります。
先生や同級生の言葉を聞くだけではなく、ブックガイドの中の本を開いてみてください。
心に響く言葉を伝えてくれるのは、自分とは違う時代や国に生きた人かもしれません。

学んで、 知って、考える

「教養」って何？



歴史と人物

「人間」って何？



世界を知る、 社会を変える

「現代」って何？



聞いて、 話して、物語る

「言葉」って何？



科学と技術

「自然」って何？



生きて、 愛して、旅をする

「人生」って何？



見て、 感じて、造る

「想像力」って何？



●リストの見方

著者『図書タイトル』（出版社、文庫・新書名）

所在 & 請求記号

教員からのコメント

●学んで、知って、考える——「教養」って何？

安西祐一郎『心と脳——認知科学入門』（岩波新書）

大岡山：B1F-一般図書 141.51/A

大岡山：B1F-文庫・新書 081/Id/1331

すずかけ台：3F-一般図書 141.51/A

人間が何かを感じたり、考えたり等、「心」はどのようににはたらき、「心」は「脳」からどのようにして生まれるのか？ 「心」と「脳」の働きについて理解する研究分野である「認知科学」の考え方と方法、これまでに得られた知見について紹介しています。

池上彰『池上彰の教養のススメ 東京工業大学リベラルアーツセンター篇』（日経 BP 社）

大岡山：B1F-一般図書 002/I

大岡山：B1F-「東工大先生の本」文庫 002/I

すずかけ台：1F-ペリパトス文庫：和書 002/I

すずかけ台：3F-「東工大先生の本」文庫 002/I

池上彰さんが東工大リベラルアーツセンターの教授に着任したのが 2012 年のこと。この本はそれ以後のシンポジウムでの討論や、東工大の名物教授たちとの対談などが収められている。なぜ理工系の大学なのに「教養」が必要なのか。東工大生の素晴らしい点と弱点は何なのか？ ハーバード、MIT などの教養教育も紹介されている。「最先端のことだけを学んでも 5 年も経てば古びて使い物にならなくなってしまいます。その時にさらに前に進むためには、文学や哲学、宗教といった何百年も古びない学問こそ大学の時に学んでおくべきなのです」という MIT の教授の発言にはインパクトがある。対談形式で書かれているので、とても読みやすい本だ。

市川伸一『考えることの科学——推論の認知心理学への招待』（中公新書）

大岡山：B1F-一般図書 141/I

大岡山：B1F-文庫・新書 081/Ty/1345

すずかけ台：3F-一般図書 141/I

人間がどのように思考し推論するか、その考え方にどのような特性があり、どのような心の中のモデルを用いて行われているのか、について認知心理学の視点から説明しています。

稲垣佳世子、波多野誼余夫『人はいかに学ぶか——日常的認知の世界』（中公新書）

大岡山：B1F-一般図書 141.3/I

大岡山：B1F-文庫・新書 081/Ty/907

すずかけ台：3F-一般図書 141.3/I

人が学ぶとは、生得的な認知制約と、文化的な認知制約を受けながら、外部から伝達される知識を内的制約と照らし合わせつつ再構築していることや、学習者同士が影響し合うことなど、「学び」について多角的に解説している一冊です。

梅棹忠夫『情報の文明学』（中公文庫）

大岡山：B1F-一般図書 007.3/U

すずかけ台：3F-一般図書 007.3/U

皆さんは、高校の情報科で何を学びましたか？ 情報を使いこなす上で大事なものは何か、技術的な理解を深めることと、情報の意味や価値、社会的影響を理解することと、どちらが重要なのかを考えるきっかけになればと思います。

岡潔、小林秀雄『人間の建設』（新潮文庫）

大岡山：B1F-一般図書 404/Ko（新潮文庫）

大岡山：B1F-一般図書 914.6/Ko/13（小林秀雄全集）

大岡山：B1F-一般図書 914.6/Ko/S1（小林秀雄全集）

すずかけ台：3F-一般図書 404/Ko

昭和を代表する文芸批評家と数学者による極めて示唆に富む創造的対話集。人間の精神的営為に関して縦横無尽に語り合い、その本質を見事に浮き彫りにする。感性や情緒が、知性や論理に優先・優越し、それらの根源になるという両者の基本認識は、現在の表層的な文理の差異を超越しうる普遍的世界観として、これまで以上に重要である。

サルマン・カーン『世界はひとつの教室——「学び×テクノロジー」が起こすイノベーション』（ダイヤモンド社）

大岡山：B1F-一般図書 379.7/Kh

すずかけ台：3F-一般図書 379.7/Kh

The one world schoolhouse: Education Reimagined の翻訳書です。いとこのための家庭教師から始めて、Khan academy というオンライン上の教育プラットフォームを立ち上げる過程の筆者の取り組みを知り、学びとは何か、テクノロジーが教育をどう変えるのか、学校教育のシステムはどうあるべきか、考えてみよう。

川喜田二郎『発想法——創造性開発のために』（中公新書）

大岡山：B1F-一般図書 301/Ka/1

大岡山：B1F-文庫・新書 081/Ty/136

すずかけ台：3F-一般図書 301/Ka/1

現在は「KJ 法」と呼ばれている研究方法について文化人類学が専門で東工大の教員だった著者が書いたものです。第 1 章は科学論になっていて、科学を「実験科学」「書斎科学」「野外科学」の 3 つに分けて「野外科学」の進め方を説いています。続編もあります。

佐伯胖『「わかり方」の探究——思索と行動の原点』（小学館）

大岡山：B1F-一般図書 370.4/Sa

すずかけ台：3F-一般図書 370.4/Sa

本書では「わかる」ということがどういうことかを認知科学的視点から平易に追求されています。本書は、「教育」を行う上で「わかる」という現象を取り上げているが、本書を読むことで、「学ぶ」上で大切なことは何であるかを知ることができると思います。

柴田義松『ヴィゴツキー入門』、子どもの未来社（寺子屋新書）

大岡山：B1F-一般図書 140.2/Si

すずかけ台：3F-一般図書 140.2/Si

「アクティブラーニング」の本質は、学ぶ力をつけることであり、そのためには、学びそのものについて理解することが近道です。本書では、議論する力、そのベースとしての言語力の重要性についても考える機会が得られるでしょう。

中村雄二郎『臨床の知とは何か』（岩波新書）

大岡山：B1F-一般図書 490.15/N

大岡山：B1F-文庫・新書 081/Id/203

すずかけ台：3F-一般図書 490.15/N

すべての学問分野において、研究の目標が普遍的な真理の獲得であるのは言うまでもないが、その追及の過程で捨てられる例外にこそ生きた現実がある——知的な職業を志す者が等しく忘れてはいけない視点がここにある。

ヴィクトール・E・ فرانクル『それでも人生にイエスと言う』 山田邦男・松田美佳訳（春秋社）

大岡山：B1F-一般図書 146.8/F

すずかけ台：3F-一般図書 146.8/F

『夜と霧』の著者として有名なフランクルが、ナチスの強制収容所から解放された翌年に行った講演を収めた本であるため、フランクルからの語りかけを感じながら読み進められることでしょう。「生きる意味とは？」。この問いをもった人はぜひ読んでみて下さい。これから生きていく中で繰り返し読みたくなる本となるはずです。

夏目漱石『三四郎』(岩波文庫、新潮文庫、角川文庫など)

大岡山 : B1F-一般図書 913.6/N (岩波文庫)
大岡山 : B1F-一般図書 918/I/13 (日本文学全集)
大岡山 : B1F-一般図書 918/N/8 (日本文学全集カラー版)
大岡山 : B1F-一般図書 918.6/Si/3 (新潮日本文学)
大岡山 : B1F-一般図書 918.68/N/7 (漱石文学作品集)
大岡山 : B1F-集密 : 一般図書 W000515 (日本の文学)
大岡山 : B1F-集密 : 一般図書 W007363 (漱石全集)
大岡山 : B1F-集密 : 一般図書 W026099 (日本文学全集)
すずかけ台 : 3F-一般図書 913.6/N

いまさらと感ずるかも知れないが、未読の人はさっそく、既読の人は再度通読して欲しい。明治時代の学生と今の学生はどこが同じでどこが違うのか。大学で学ぶとはなにかなど、新鮮に感じるのではないだろうか。ところで、三四郎が最初に出会ったとき広田先生はなんで水蜜桃を食べているのだろうか？ 私は読み返すたびに不思議になる。馬鹿みたいな味だからってほんとうかな？ それから、三四郎は大学を出たあとでどういう仕事に就くのだろう。

J・L・ボルヘス『七つの夜』(岩波文庫)

大岡山 : B1F-文庫・新書 080/Ie/792
大岡山 : B1F-一般図書 964/B
すずかけ台 : 3F-一般図書 964/B

いつでもくり返し目をみはり耳を澄ますために、私たちは知識を求め、固定しそうな像をゆさぶる。深く広く知ることは精神が身軽になることだと教えてくれる講演集。テーマは夢、詩、仏教など一夜毎に自由に広がる。

ダレル・ハフ『統計でウソをつく法——数式を使わない統計学入門』高木秀玄訳(講談社ブルーバックス)

大岡山 : B1F-一般図書 350.1/H
大岡山 : B1F-一般図書 408/B/120
すずかけ台 : 3F-一般図書 350.1/H
すずかけ台 : 3F-一般図書 408/B/120

欲しい情報は簡単に得られても、その情報を正しく読み解く力がなければ、宝の持ち腐れです。高校数学でもデータ分析を学びますが、単なる計算法を知っていることと、正しくデータを読むこととの違いを考えてみましょう。

●歴史と人物——「人間」って何？

荒井 献『イエス・キリストの言葉——福音書のメッセージを読み解く』（岩波現代文庫）

大岡山：B1F-一般図書 193.6/A

すずかけ台：3F-一般図書 193.6/A

物事を考える際に、根本にかえる重要性を忘れてはいけない。キリスト教の根本である新約聖書を、世界的な専門家が読み方の基本から分かり易く解説したもの。キリスト教論は様々に溢れ返っているが、考えるスタートはここにある。

上田紀行『人間らしさ——文明、宗教、科学から考える』（角川新書）

大岡山：B1F-一般図書 114/U

大岡山：B1F-「東工大先生の本」文庫 114/U

すずかけ台：3F-「東工大先生の本」文庫 114/U

この本は東工大と慶應大学の合同ゼミで2年連続して慶應の女子学生から「東工大生は人間味がない」「こんなに人間に興味がない人たちとは驚いた」と指摘されたというイタい話から始まっている。東工大生は他の人たちからどのように見られがちなのか。ぜひその部分だけでも読んでほしい。しかしいったい「人間らしさ」とは何だろうか。この本では生殖医学などの先端科学、現代社会のシステム化、そして宗教にも触れながら論じられていくが、それを読みながら私たちは人間なのに「人間らしさ」について真正面から考えてこなかったことに気づかされるだろう。そして最後には皆さんがこれから体験していく東工大の新しいリベラルアーツ教育のねらいと展望にも触れられている。

カズオ・イシグロ『日の名残り』土屋政雄訳（ハヤカワ epi 文庫）

大岡山：B1F-一般図書 933.7/I（ハヤカワ epi 文庫）

大岡山：B1F-一般図書 933/I

すずかけ台：1F-ペリパトス文庫：文庫・新書 933.7/I

イシグロは5歳で渡英し、のちに帰化した日系英国人作家。本作の主人公は、イギリス田園の貴族の屋敷に仕える従順な執事である。いっけん過剰なまでに伝統的な英国小説に思えるが、イシグロはむしろこうした見方を否定する。現代における作家のルーツや越境の問題を考えるうえでも、きわめて興味深い作品である。

塩野七生『すべての道はローマに通ず——ローマ人の物語 X』（新潮社）

大岡山：B1F-一般図書 232/Si/1, 232/Si/2（新潮文庫）

大岡山：B1F-一般図書 232/Si/10

すずかけ台：3F-一般図書 232/Si/1, 232/Si/2（新潮文庫）

すずかけ台：1F-ペリパトス文庫：和書 232/Si/10

1992年から2006年までかけて刊行された連作のうちの一冊である。シリーズの他の巻とは異なる構成を採用し、街道、水道、医療、教育といったインフラストラクチャーをとりあげてローマ人というあり方を通観する。文庫版『ローマ人の物語』では<27>と<28>が該当するほか電子書籍としても入手できる。

高橋治『絢爛たる影絵 小津安二郎』（岩波現代文庫）

大岡山：B1F-一般図書 778.21/Ta

すずかけ台：3F-一般図書 778.21/Ta

小説家として名を成した著者だが、大学卒業後は映画監督を志し、小津安二郎監督の『東京物語』の助監督を務めてもいる。表題作は彼の目から見た小津監督の評伝。併録の「幻のシンガポール」もぜひ読んでほしい。国家の要請と芸術家の良心とのせめぎ合いがリアルに描かれている。

アントニオ・タブッキ『供述によるとペレイラは…』須賀敦子訳（白水社Uブックス）

大岡山：B1F-一般図書 973/Ta

大岡山：B1F-文庫・新書 081/H/134

すずかけ台：3F-一般図書 973/Ta

この作品の舞台はファシスト戦時下のポルトガル。主人公は冴えない新聞記者のペレイラである。供述として綴られる彼の物語では、表現の自由と抑圧的な社会とのはざままで現実から逃避するように日々筆を走らせているこの人物が、若者たちとの出会いによって静かな抵抗に目覚める過程が、ときに幻想的な世界観とともに描かれている。政治的に重い主題を扱いながらも、どこか軽快なタブッキの筆遣いは、エーコやカルヴィーノと並んで、現代イタリア文学の代名詞にふさわしい。タブッキが気に入った人には、アルゼンチンの巨匠のコルタサルやボルヘスもおすすめ。

フランク・カフカ『変身』高橋義孝訳（新潮文庫）

大岡山：B1F-一般図書 943.7/Ka

大岡山：B1F-一般図書 943/Ka（ドイツの名作）

大岡山：B1F-一般図書 908/Ka/20（河出世界文学全集）

大岡山：B1F-文庫・新書 081/H/152（白水Uブックス）

大岡山：B1F-文庫・新書 080/Ie/438（岩波文庫）

大岡山：B1F-文庫・新書 080/Kod/Ka（光文社古典新訳文庫）

大岡山：B1F-リベラルアーツ資料 943.7/Ka（新潮文庫）

大岡山：B1F-集密：一般図書 W023112（ドイツの文学）

大岡山：B1F-集密：一般図書 W004758（現代世界文学全集）

すずかけ台：3F-一般図書 908/Ka/20（河出世界文学全集）

すずかけ台：3F-一般図書 908/Ti/A65（筑摩世界文学大系）

すずかけ台：2F-リベラルアーツ資料 943.7/Ka

すずかけ台：1F-ペリパトス文庫：文庫・新書 943.7/Ka（光文社古典新訳文庫）

カフカは日本では名前だけがやたらと有名になってしまったが、じっさいにこの作品を先入観抜きに読めば、不条理だとか、悪夢的だとか、ユダヤ人の悲劇、アウシュビッツを予見したなどという定説がいかにも的外れであるかを知ることになる。「変身」に限らずカフカの作品は、躍動感と生への肯定、笑いに満ち満ちている。

砺波 護『馮道——乱世の宰相』（中公文庫）

大岡山：B1F-一般図書 289.2/To ※6月から貸出可になります

中国で初めて中央集権体制が確立し、それ以降は諸国家の分裂や王朝の目まぐるしい変遷が絶無となったのは、10世紀は宋(北宋)の成立によるものである。その直前に中国史上で最もマイナーと言われる五代十国時代という変革期があった。その時代に五朝八姓十一君に仕え、文人として剛直、官吏として柔軟という矛盾を貫くことで生き抜いた政治家の評伝である。中国の歴史には西洋の中世に相当するものが存在せず、乱世にあってこそマイナーだが超越的な人間像(曹操、苻堅、そしてこの馮道)を通じ、時折、近代性の幻影が垣間見られる、その深い理由を考えさせる好著である。

橋爪大三郎『はじめての聖書』（河出書房新社）

大岡山：B1F-一般図書 193/H

すずかけ台：3F-一般図書 193/H

皆さんはキリスト教についてはどのくらい知っていますか？ もしかしてクリスマスにはプレゼントをしてケーキを食べるなんて、そんなことしか知らない人が多いのでは。でもそれでは恥ずかしい。皆さんの学んでいる近代科学はキリスト教と深い関係をもって発展してきました。そして皆さんがこれから留学したり、仕事をしたりする国の多くはキリスト教国でしょう。この本は14歳向けに書かれた本です。だからものすごく分かりやすい。留学前に最低限このくらいは読んでいってください。そしてこの本でキリスト教のことがちょっと分かると、こんどは絶対「私たちが信じているとされている神道とか仏教はいったいどんな宗教なんだろう？」ということが気になってくるはず。海外で自分の国の宗教の話もできないのも恥ずかしい。この本をスタート地点にして、少しずつ「宗教通」になっていってください。

原武史『「鉄学」概論——車窓から眺める日本近現代史』（新潮文庫）

大岡山：B1F-一般図書 686.21/H ※6月から貸出可になります

鉄道を通して、日本社会の構造や日本人の意識を解明していく本。鉄分少なめの諸君は奥深き鉄道の世界の入り口に。鉄分多めの諸君は日本の近代についても語れるデキる大学生になるための指南書として。

藤原辰史『稲の大東亜共栄圏——帝国日本の〈緑の革命〉』（吉川弘文館）

大岡山：B1F-一般図書 612.2/H

すずかけ台：3F-一般図書 612.2/H

近年技術革新が目覚ましい遺伝子組み換え産業。だがそれと並行して種子の市場での多国籍大企業による市場独占も進んでいる。遺伝子組み換えに伴う諸問題は、これまでの品種改良の問題と切り離せないことを著者は説得的に論じている。食物連鎖を支配することは、人を支配することでもある。『ナチス・ドイツの有機農業』の著者が、20世紀初頭の日本の植民地政策と稲の品種改良の歴史との関係に鋭く切り込んだ好著。

ヴィクトール・E・フランク『夜と霧』池田香代子訳（みすず書房）

大岡山：B1F-一般図書 946/F

大岡山：B1F-リベラルアーツ資料 946/F

すずかけ台：1F-ペリパトス文庫：和書 946/F

すずかけ台：2F-リベラルアーツ資料 946/F

重いテーマですが、読んだ人は一生忘れないでしょう。強制収容所記というより、「人間」そのものを考えさせる哲学的な書という点で、「教養」の名にふさわしい本だと思います。〈わたしたちは、おそらくこれまでのどの時代の人間も知らなかった「人間」を知った。では、この人間とはなにものか。人間とは、なにかをつねに決定する存在だ。人間とは、ガス室を発明した存在だ。しかし同時に、ガス室に入っても毅然として祈りのことばを口にする存在でもあるのだ〉

ウィリアム・H・マクニール『疫病と世界史』上・下巻、佐々木昭夫訳（中公文庫）

大岡山：B1F-一般図書 493.8/M/1, 493.8/M/2

すずかけ台：3F-一般図書 493.8/M/1, 493.8/M/2

歴史を動かす究極的な力(要因)は何なのか。神の摂理？ 超越的な人間の能力？ 技術力の発展に伴う経済構造の変化？ 単なる偶然と運がすべて？ それとも複合的原因による多重的决定？ いやいや、それを前にしては免疫を持たぬ人間など全く無力な、未知の(あるいは既に抑止できたと思われていた)感染症・疫病!の力を忘れてはならない。中世の黒死病(ペスト)がなかったら、我々は現在、我々の知る世界とは全く違った世界を眼にしていたであろう。ホーキングが敢えて「絶対に人類は未知との遭遇をしてはならない」という理由もそこにある。我々の運命は、愚か者の手中などではなく、知られざるウィルスに握られているのかもしれない。同時に「同じ意味で」ジョン・W・キャンベルの『影が行く』も必読書である。

ダニエル・カーネマン『ファスト&スロー あなたの意思はどのように決まるのか?』村井章子訳（早川書房）

大岡山：B1F-一般図書 141.5/Ka/1,141.5/Ka/2

すずかけ台：1F-ペリパトス文庫：文庫・新書 141.5/Ka/1,141.5/Ka/2

2002年にノーベル経済学賞を受賞した心理学者カーネマンの著書である。本書では、私たちの意思決定過程に係わる様々な心理的要因が取り上げられており、いかに私たちが無意識的な心理プロセスに気づいていないかを気づかせてくれる。多くの実験内容が具体的に例示されているので、体験を通じて、「人間」について新たな視点をもつ機会を提供してくれる。

● 世界を知る、社会を変える——「現代」って何？

今橋映子『フォト・リテラシー』（中公新書）

大岡山：B1F-一般図書 743.8/I

大岡山：B1F-文庫・新書 081/Ty/1946

すずかけ台：3F-一般図書 743.8/I

テレビ、ネット、SNS——現代社会では至る所に映像が氾濫しています。そのような状況の中で、著者は外国語を読めたりコンピューターが使えるたりするのと同じように、映像を見るのにもリテラシー＝読み書き能力が必要だと主張します。写真や動画の虚偽や善悪といった問題を超え、映像を通して積極的かつ批判的に世界を知る方法への手がかりを与えてくれる本です。

宇沢弘文『自動車の社会的費用』（岩波新書）

大岡山：B1F-一般図書 685.1/U

大岡山：B1F-文庫・新書 081/Ib/890

大岡山：B1F-集密：一般図書 W021043

すずかけ台：3F-一般図書 685.1/U

現代社会に不可欠な自動車の普及がもたらす問題について経済学的、法政策的な議論を知ることができる。

後藤健二『ダイヤモンドより平和がほしい——子ども兵士ムリアの告白』（汐文社）

大岡山：B1F-一般図書 319.8/G

すずかけ台：3F-一般図書 319.8/G

小中学生でも読めるような平易な文章、大きな文字で書かれていて、だれにでも分かるように丁寧に書く・伝えるということの大切さに気づかされます。意に反して子ども兵にされた少年との対話を通して、そして子ども兵の被害に遭った人々の記憶を通して、忘れることができない記憶に向き合う姿が胸に迫ります。世界の現状について考えるきっかけに。

高橋源一郎『ぼくらの民主主義なんだぜ』（朝日新書）

大岡山：B1F-一般図書 304/Ta

すずかけ台：3F-一般図書 304/Ta

突っ込みどころは色々ありますが、「ささやかでも、民主主義を諦めない」ことを若者に伝えようとしている本だと思います。18歳から選挙権が付与され、国民投票実施も現実味を帯びる中、「民主主義」について考えずに投票されると怖いので、ぜひ。

田尻宗昭記念基金『なにやってんだ行動しよう』（アットワークス）

大岡山：B1F-一般図書 519/Ta

すずかけ台：3F-一般図書 519/Ta

法制度の枠組みを最大限活用して四日公害の摘発に尽力した田尻宗昭氏。その記念基金を受賞した様々な市民活動が有名な公共訴訟の基にあることを知ることができる。

ノーム・チョムスキー『メディア・コントロール——正義なき民主主義と国際社会』鈴木主税訳（集英社新書）

大岡山：B1F-一般図書 361.4/C

すずかけ台：3F-一般図書 361.4/C

2003年に出版された本ですが、その主張は今でも古びていません。著者は、生成文法理論を提唱する言語学者。本書を読んで、与えられた情報を鵜呑みにせず、自分の頭で考えることの大切さについて考えてみてください。

長谷部恭男『Interactive 憲法 続』（有斐閣）

大岡山：B1F-一般図書 323.14/H/2

すずかけ台：3F-一般図書 323.14/H/2

高名な憲法学者による憲法の理念のエッセンスを多角的に取り上げ、人権の保障、法の支配の重要性を知ることができる。

原田正純『水俣病』（岩波新書）

大岡山：B1F-一般図書 493.152/H

大岡山：B1F-文庫・新書 081/Ib/841

すずかけ台：3F-一般図書 493.152/H

社会に大きな影響を与えた公害病である水俣病についてその原因追究の過程、企業の利潤追求や行政の姿勢、患者のおかれた立場などについて患者の側にたって水俣病を告発していた医師が記したもの。

牧野淳一郎『原発事故と科学的方法』（岩波書店）

大岡山：B1F-一般図書 408/I/216

大岡山：B1F-一般図書 543.5/M

すずかけ台：3F-一般図書 543.5/M

福島第一原子力発電所の事故直後から公式情報にも混乱がある中、事故の規模や放射性物質の状況を高い精度で見通し、情報発信を行う科学者が東工大にいた。原発や放射性物質の専門家ではない彼が高校生にも理解可能な科学知識を用いて、どのようにそれを成し遂げたかの記録であり、改めて原発の問題を振り返るきっかけとなる。

増田寛也『地方消滅——東京一極集中が招く人口急減』（中公新書）

大岡山：B1F-一般図書 334.3/M

大岡山：B1F-文庫・新書 081/Ty/2282

すずかけ台：3F-一般図書 334.3/M

以前から懸念されていた人口減少をややセンセーショナルに取り上げた有名な新書ですが、「知の常識」の1つとして読んでおいて欲しい本です。明快なデータで、今の若者が社会の中核を担う25年後あたりに地方自治体の半数が消滅危機、高齢者になる頃には人口3割減、高齢者率4割という未来予測が示されます。目をそらさず、少しでも解決策を考えていかなければなりません。

ムハマド・ユヌス『貧困のない世界を創る——ソーシャル・ビジネスと新しい資本主義』猪熊弘子訳（早川書房）

大岡山：B1F-一般図書 335.8/Y

すずかけ台：3F-一般図書 335.8/Y

Muhammad Yunus with Karl Weber, *Creating a World without Poverty: Social Business and the Future of Capitalism*, New York, Public Affairs, 2007.

著者は2006年にノーベル平和賞を受賞した。彼が創立したグラミン銀行は貧困層を対象にグループ単位でお金を貸している。そのおかげで企業して会社を大きくすることもでき、子供を学校に通わせられるようになり、彼らは貧困を抜け出すことができる。社会に良い企業とは何か、成功の意味を広げる経済学者のベストセラー。

Yousafzai, Malala, *I Am Malala: The Girl Who Stood Up for Education and Was Shot by the Taliban*. Co-written by Christina Lamb. New York: Back Bay Books, 2014.

大岡山：B1F-一般図書 289.2/Y

すずかけ台：1F-ペリパトス文庫：洋書 289.2/Y

An inspirational autobiography by a brave young girl from the Swat Valley of Pakistan, raised by a loving mother and a father who instilled in her a love for learning, with a clear message: Give girls an education. Malala's outspokenness and her BBC blog nearly cost her life—shot in the head by a Taliban on her way home from school. Yet, her survival gives us hope as we see nations unite, providing her with medical treatment and a more prominent and audible platform at The United Nations for her activities. Malala, the youngest Nobel Peace Prize winner, shows us how one individual can change the world by becoming a voice for those who cannot speak.

●科学と技術——「自然」って何？

宇沢弘文『自動車の社会的費用』（岩波新書）

大岡山：B1F-一般図書 685.1/U

大岡山：B1F-文庫・新書 081/Ib/890

大岡山：B1F-集密：一般図書 W021043

すずかけ台：3F-一般図書 685.1/U

自動車を使用することは、たんに「私的な資源の利用」（自動車購入費、ガソリン代）ではなく、必ず道路という社会的資源の使用にもかかわることだ。それはより広くは都市環境の問題にも直結する。自動車が歩行者の権利を侵害しているという視点から、自動車運転を取り囲む経済構造とその諸問題を捉えた、日本を代表する数理経済学者による刺激的な論考。これとは別に、「自動車に乗る」経験が人間と風景との接し方を変えるという論点に興味がある方は、M. フェザーストン/N. スリフト /J. アーリー編著『自動車と移動の社会学』（近森高明訳、法政大学出版局）を参照のこと。

スティーヴン・グールド『人間の測りまちがい』上・下巻、鈴木善次、森脇靖子訳（河出文庫）

大岡山：B1F-一般図書 141.1/G/1,141.1/G/2（河出文庫）

大岡山：B1F-一般図書 469/G

すずかけ台：3F-一般図書 141.1/G/1,141.1/G/2（河出文庫）

すずかけ台：3F-一般図書 469/G

100 年前まで行われていた、人間を差別するための意図を持った科学を検証している。専門的記述が多少みられるものの、理解は容易であろう。科学的知識が社会で果たす役割・責任を感じる。

トーマス・クーン『科学革命の構造』中山茂訳（みすず書房）

大岡山：B1F-一般図書 402/Ku

大岡山：B1F-リベラルアーツ資料 402/Ku

すずかけ台：2F-リベラルアーツ資料 402/Ku

すずかけ台：3F-一般図書 402/Ku

パラダイムという概念を最初に提唱された本です。今までの科学における発明がどのようにパラダイムシフトしてきたかを理論的に説明している本です。

柴田鉄治『科学事件』（岩波新書）

大岡山：B1F-文庫・新書 081/Id/663 ※6月から貸出可になります

すずかけ台：3F-一般図書 404/Si

臓器移植、薬害エイズ、クローン羊などの科学事件について、学会、行政、報道がどのように対応したかについて元新聞記者の立場から語られている。

ルース・シュウォーツ・コーワン『お母さんは忙しくなるばかり』高橋雄造訳（法政大学出版局）

大岡山：B1F-一般図書 590.2/C

すずかけ台：3F-一般図書 590.2/C

科学技術は人々の生活をよくするためにある。技術者なら、誰でもそう考えているはずだ。だが、家事を軽減するはずの家電が、20世紀、実は家事労働を増やしてしまった。もう主婦の時代ではないかも知れないけれど、技術と人間の間接性を考えるのに本書は示唆に富んでいる。

武谷三男『安全性の考え方』（岩波新書）

大岡山：B1F-文庫・新書 081/Ib/644

大岡山：B1F-一般図書 519/Ta ※6月から貸出可になります

健康に関連するいくつかの事例の顛末等が記載され安全について考える材料になると思う。事例については新しいものではないが、現在の社会においても形を変えて起こりうる問題である。

中村桂子『科学者が人間であること』（岩波新書）

大岡山：B1F-一般図書 404/N

大岡山：B1F-文庫・新書 081/Id/1440

すずかけ台：3F-一般図書 081/Id/1440

生命科学・生命誌を専門とする著者が、東日本大震災以降、改めて問い直したこれからの科学と科学者としてのありよう。「人間は生きものであり、自然の中にある」という考えの基盤が、繰り返し語られる。

夏目漱石『三四郎』（岩波文庫、新潮文庫、角川文庫など）

大岡山：B1F-一般図書 913.6/N（岩波文庫）

大岡山：B1F-一般図書 918/I/13（日本文学全集）

大岡山：B1F-一般図書 918/N/8（日本文学全集カラー版）

大岡山：B1F-一般図書 918.6/Si/3（新潮日本文学）

大岡山：B1F-一般図書 918.68/N/7（漱石文学作品集）

大岡山：B1F-集密：一般図書 W000515（日本の文学）

大岡山：B1F-集密：一般図書 W007363（漱石全集）

大岡山：B1F-集密：一般図書 W026099（日本文学全集）

すずかけ台：3F-一般図書 913.6/N

1908年の作品。100年前の大学生、三四郎の毎日を今の自分の大学生活と比べながら読んでみるとおもしろいと思います。登場人物の一人の野々宮宗八は、物理学者・随筆家の寺田寅彦をモデルにしたと言われています。

帚木蓬生『水神』上・下巻（新潮文庫）

大岡山：B1F-一般図書 913.6/H/1,913.6/H/2

すずかけ台：3F-一般図書 913.6/H/1,913.6/H/2

日本三大暴れ川・筑後川の治水工事を扱ったフィクション。九州には似たような実話も多い。農民の苦労や、治水に当たった庄屋（現代のリーダー）の苦労が、悠大な自然の描写と共に描かれている。

アンドリュー・パーカー『眼の誕生-カンブリア紀大進化の謎を解く』渡辺政隆、今西康子訳（草思社）

大岡山：B1F-一般図書 457.8/P

すずかけ台：3F-一般図書 457.8/P

5億4000万年程前に生物種が爆発的に増加した謎を扱った古生物学の解説書。ストーリー展開や訳が自然で読みやすい。科学的知見の積み重なりが、人をワクワクさせると実感できる。

エリック・ブリニョルフソン、アンドリュー・マカフィー『機械との競争』村井章子訳（日経BP社）

大岡山：B1F-一般図書 504/B

すずかけ台：3F-一般図書 504/B

デジタル革命で人間にとって便利な夢の世界が実現するかのように見える陰で、大量の雇用喪失が生まれている。コンピューターは人間を職場から駆逐するのか。こうした事態にMITの研究者2人がメスを入れた。

小島信夫『アメリカン・スクール』（新潮文庫）

大岡山：B1F-一般図書 913.6/Ko

大岡山：B1F-一般図書 913.68/A/5（芥川賞全集）

大岡山：B1F-一般図書 918/N/52（日本文学全集：カラー版）

大岡山：B1F-一般図書 918.6/H/25（ふるさと文学館）

大岡山：B1F-一般図書 918.6/G/C90（現代日本文学大系）

大岡山：B1F-一般図書 918.6/N/I38（日本文学全集）

大岡山：B1F-一般図書 918.6/Sy/21（昭和文学全集）

すずかけ台：3F-一般図書 913.6/Ko

すずかけ台：3F-一般図書 913.68/A/5（芥川賞全集）

すずかけ台：1F-ペリパトス文庫：和書 918.6/H/25（ふるさと文学館）

小説とは、作者の意図やメッセージを投影する媒体ではなく、それが書かれることによって、結果的に作者の意図などを遥かに超えた「得体の知れなさ」として表出される芸術である、ということをこの作品集は示している。江藤淳と保坂和志の解説の対比も読む価値あり。

宮沢賢治『銀河鉄道の夜』（岩波文庫、ちくま文庫、新潮文庫など）

大岡山：B1F-文庫・新書 080/Ic/76（岩波文庫）

大岡山：B1F-一般図書 913.8/M（岩波文庫） ※6月から貸出可になります

大岡山：B1F-リベラルアーツ資料 913.6/M（新潮文庫）

大岡山：B1F-一般図書 913.6/M（ちくま文庫：宮沢賢治全集）

大岡山：B1F-一般図書 918.68/M/12（新修宮沢賢治全集）

大岡山：B1F-一般図書 918.68/M/D9,918.68/M/D10（校本宮澤賢治全集）

大岡山：B1F-一般図書 918.6/G/C27（現代日本文学大系）

大岡山：B1F-一般図書 908.3/Se/B34（世界SF全集）

すずかけ台：1F-ペリパトス文庫：和書 913.6/M（岩波少年文庫）

すずかけ台：1F-ペリパトス文庫：文庫・新書 913.6/M（新潮文庫）

すずかけ台：2F-リベラルアーツ資料 913.6/M（新潮文庫）

すずかけ台：3F-一般図書 913.8/M（岩波文庫）

すずかけ台：3F-一般図書 918.6/M（ちくま文庫：宮沢賢治全集）

新潮版では削られているが、この鉄道の旅全体を実験とよぶ博士が登場する場面もおもしろい。各時代が真実とみなす宇宙像の違い、その変遷の歴史をたどりながら、では自分はどんな像を描き生きるのか。

吉田洋一『零の発見』（岩波新書）

大岡山：B1F-一般図書 410.2/Y

すずかけ台：3F-一般図書 410.2/Y

数学の生い立ちを分かりやすく説明している古典的名著。前半はアラビア数字のインドから欧州への伝搬を、後半はギリシャの数学を中心テーマとしている。無限、対数、連続、デデキントの切断から算盤など、話題も豊富。著者の吉田先生は、いまもときどき学内でお見かけする吉田夏彦・東工大名誉教授（科学哲学、論理学）のお父上で、本学とも縁が深い。

ジェームス・D・ワトソン『二重らせん』江上不二夫、中村桂子訳（講談社ブルーバックス）

大岡山：B1F-一般図書 408/B/1792（ブルーバックス） ※6月から貸出可になります

大岡山：B1F-一般図書 464.27/W（講談社文庫）

大岡山：B1F-リベラルアーツ資料 464.27/W（ブルーバックス）

すずかけ台：2F-リベラルアーツ資料 464.27/W（ブルーバックス）

DNAの二重らせん構造を解明するまでの道のりを、当事者のワトソンが書いたもの。科学者が日々どのように考え感じて研究しているか、研究競争とはどんなものかよくわかる。描写の面白さから専門用語は気にならない。

●聞いて、話して、物語る——「言葉」って何？

赤瀬川原平『新解さんの謎』(文春文庫)

大岡山：B1F-一般図書 914.6/A

すずかけ台：3F-一般図書 914.6/A

日本語の字引は世界の言語の中でもかなり異色だが、中でも『新明解国語辞典』はぶっ飛びの例文がざくざく出てくる。たとえば「恋愛」の項で、「一組の男女が相互にひかれ、ほかの異性をさしおいて最高の存在としてとらえ、毎日会わないではいられなくなる」とある。これに限らず、そこまで書かなくてもと思う語釈が多い。読んでいて実に楽しい辞典が『新明解』である。その『新明解』のおもしろさを物語に仕立てあげたのが、この本なのだ。

ガブリエル・ガルシア=マルケス『百年の孤独』鼓直訳(新潮社)

大岡山：B1F-一般図書 963/G

大岡山：B1F-リベラルアーツ資料 963/G

すずかけ台：2F-リベラルアーツ資料 963/G

コロンビアのノーベル賞受賞作家による、マジックリアリズムの代表作。ガルシア=マルケスの大きな魅力のひとつは、その迫力にみちた見事な語り口にある。うねるような語りの流れに身を任せ、現実と幻想が渾然一体となった豊潤な世界を堪能してほしい。

木下是雄『理科系の作文技術』(中公新書)

大岡山：B1F-一般図書 407/Ki

大岡山：B1F-文庫・新書 081/Ty/624

すずかけ台：3F-一般図書 407/Ki

とにかく早く読んでほしい一冊です。「目標規定文」、「重点先行主義」、「逆茂木型の文章を避ける」、「はっきり言い切る」、「事実と意見」、「まぎれの無い文」、などなど。どれも重要です。11章の「スライド」の説明には時代を感じます。

窪園晴夫『新語はこうして作られる』(岩波書店)

大岡山：B1F-一般図書 814/Ku ※6月から貸出可になります

カレーコロッケとコロッケカレー、さてカレーライスの上にコロッケが乗せられて出されるものは、どちら？ またそれはなぜ？ 単語と単語の合成語を複合語と呼ぶが、なんでもかんでも自由なルールで複合語は作られるわけではない。そこにはとても緻密なルールがあるのだ。

五味康祐『柳生武芸帳』上・下巻（文春文庫）

大岡山：B1F-一般図書 913.6/G/1, 913.6/G/2

すずかけ台：3F-一般図書 913.6/G/1, 913.6/G/2

昭和30年代、週刊誌に連載された時代活劇小説。最初は人物相関図を描きながら多彩な人物像とストーリー展開を楽しんでほしい。その上で、静と動、明暗と色彩、遠と近とを取り入れた視覚的な描写法、あるいは物語中の事物や制度についてのうんちく話の導入といった語り口にも気を向けていきたい。ただし、ところどころに濃い情景が現れる。その方面の描写が苦手ならばこの作品は避けたほうがよい。

オリヴァー・サックス『タングステンおじさん——化学と過ごした私の少年時代』 齊藤隆央訳（早川書房）

大岡山：B1F-一般図書 430/Sa

大岡山：B1F-一般図書 289.3/Sa

映画「レナードの朝」の原作者として知られる脳神経科医の少年時代の回想録。タングステン電球の製造工場を経営していた叔父たち（タングステンおじさん）に助けられて過ごした化学実験三昧の少年時代について。記述だけでも化学の面白さにわくわくする。

チャールズ・R・ダーウィン『新訳 ビーグル号航海記』上・下巻 荒俣宏訳（平凡社）

大岡山：B1F-一般図書 402.9/D/1, 402.9/D/2

すずかけ台：3F-一般図書 402.9/D/1, 402.9/D/2

20代のダーウィンを世界的な科学者にした5年間にわたる世界一周航海の記録。帰国して8か月で書かれた初版には進化論的な内容はないが、8年後に書かれた第2版（翻訳もこちらの版から）にはすでに進化論的な記述がある。

マーク・ピーターセン『日本人の英語』（岩波新書）

大岡山：B1F-文庫・新書 081/Id/18

大岡山：B1F-一般図書 835/P

すずかけ台：3F-一般図書 835/P

この本の著者は東工大での研究歴があります。書くための英語の本で、読みやすく、関係代名詞の使い方、冠詞の使い方などがとても役に立ちます。同じシリーズの『続 日本人の英語』（1990年）と『実践 日本人の英語』（2013年）もお勧めです。

イアン・マキューアン『贖罪』 小山太一訳（新潮文庫）

大岡山：B1F-一般図書 933.7/M/1, 933.7/M/2 ※6月から貸出可になります

英国の現代作家マキューアンの傑作。悲恋の物語、戦争の物語としても十分おもしろく読めるのだが、なにより〈物語〉について、〈書く〉という行為について、深く考えさせる作品である。結末のどんでん返しにいたって、読者はまったく異なる視点から物語をふたたび辿りなおすことになるだろう。

マーク・C・ベイカー『言語のレシピ——多様性にひそむ普遍性をもとめて』郡司隆男訳（岩波現代文庫）

大岡山：B1F-一般図書 801/B

すずかけ台：3F-一般図書 801/B

著者はモホーク語などを研究する言語学者。本書は、生成文法において言語の多様性がどのようにとらえられるのかを紹介しています。限られた数のパラメーターでさまざまな言語の違いが説明できることにワクワクしてください。

松本修『全国アホ・バカ分布考——はるかなる言葉の旅路』（新潮文庫）

大岡山：B1F-一般図書 810.2/M

すずかけ台：3F-一般図書 810.2/M

柳田国男の方言圏論は「かたつむり」が「でんでんむし」「マイマイ」「ツブリ」「ナメクジ」など日本列島を同心円上に分布することを説いたのであるが、この本は「アホ」は関西、「バカ」は関東、ではどこから「アホ」は「バカ」に変わるのか？ その境界線はどこに引けるのかを大まじめに説いた書である。

山久瀬洋二『言い返さない日本人』（IBC パブリッシング）

大岡山：B1F-一般図書 361.42/Y

大岡山：B2F-語学・留学用資料 361.42/Y

すずかけ台：2F-語学・留学用資料 361.42/Y

This book may look like a simple and simplistic bi-lingual primer for businessmen about differences between practices and expectations in Japan and Euro-America, but it is a lot more than *that*. The author's explanations of culturally bewildering behaviour and attitudes are far from simplistic; they are given for the most part in considerable detail and express the culturally 'common-sense' understanding of situations from *both* Japanese and 'Western' perspectives. This book should be compulsory reading for *anyone* intending to be active in business and internationally-framed projects, for Japan and Japanese are almost always involved, so there is always potential for the sorts of misunderstandings analysed here. The parallel Eng-J text is very helpful for our 1st year students.

●見て、感じて、創る——「想像力」って何？

伊藤亜紗『目の見えない人は世界をどう見ているのか』（光文社新書）

大岡山：B1F-一般図書 369.275/I

大岡山：B1F-「東工大先生の本」文庫 369.275/I

すずかけ台：3F-一般図書 「東工大先生の本」文庫 369.275/I

視覚障害者がどのように世界を認識しているのか、インタビューをもとに構成した身体論。障害者とは、健常者が使っている能力を使わず、健常者が使っていない能力を使っている人。耳や手で「見る」彼らのやり方を知ること、世界の全く別の顔が見えてくる。

岩波書店編集部編『カラー版 本ができるまで』（岩波ジュニア新書）

大岡山：B1F-一般図書 022/I

すずかけ台：3F-一般図書 022/I

本とは収められたコンテンツだけでなく、印刷された紙を束ねたモノとしても存在している。本書では、技術的な視点からグーテンベルク以来の本作りの歴史とともに、現代において本がどのように出来上がるかが概観される。紙とインクなどの素材が組版、印刷、製本といった作業をへて形をなしていくようすを知ること、本に対する新たな視点が得られるだろう。

高根正昭『創造の方法学』（講談社現代新書）

大岡山：B1F-一般図書 301.6/Ta

大岡山：1F-事務用書庫 1 W43285

すずかけ台：3F-一般図書 301.6/Ta

知的生産のために必要な科学的な方法論を、筆者の留学時代の体験談なども交えながら解説している方法論を概観した入門書です。

chim↑pom『芸術実行犯』（朝日出版社）

大岡山：B1F-一般図書 704/C

すずかけ台：3F-一般図書 704/C

一見チャラそうなルックスでありながら、被爆やフクシマの問題に真っ正面からぶつかってきたアーティスト集団 chim↑pom。自身の活動について等身大の言葉で語りながら、社会のさまざまなタブーに切り込む。難解なアートがとっても身近に見えてくる本。

フィリップ・K・ディック『パーマー・エルドリッチの三つの聖痕』浅倉久志訳（ハヤカワ文庫）

大岡山：B1F-一般図書 933.7/D

すずかけ台：3F-一般図書 933.7/D

「哲学」は分析し過ぎると対象を破壊し尽し、分裂と孤立と不安を生み、逆に「宗教」は理性の及ばない全体性をもって、人間の深い根っこの存在を抑えてしまう。こう考えて悩む人々にとり、「哲学」と「宗教」の「間」には、それらを媒介する決定的な何かがある筈だ。古典古代においてはそれはストア主義であったし、現代においてはそれに替わるものは精神分析あるいはSFであろう。このドラッグ小説は生まれてこのかた数十回は読んでいて、そのたびに圧倒され、自分の存在を根底から揺り動かされてしまう。（ついで、いつもこれが映画化されていない理由を考える。というのも、知り合いの高名な大学教授は、私の知る限り、『ブレードランナー』を36回見ていて、「36回目に初めて、あるシーンの背景に小さく映った絵が神護寺仙洞院の伝源頼朝像だと気付いた」、と言っていたからだ。）

原研哉『デザインのデザイン』（岩波書店）

大岡山：B1F-一般図書 757.04/H

すずかけ台：3F-一般図書 757.04/H

無印良品や長野オリンピック、銀座松屋のイノベーションなどに関わってきた著者が実体験を元に語るデザイン論。素材の性質や機能を検討し、あたりまえのことを疑い、社会とのつながりを考慮する。デザインの発想はあらゆる学問や物作りのヒントになるはずです。

岡壇『生き心地の良い町』（講談社）

大岡山：B1F-一般図書 368.3/O

すずかけ台：3F-一般図書 368.3/O

生き心地の良い町の特徴はどういうものだろうか。本書は、日本でもっとも自殺の少ない町に着目し、町の歴史から地理的特性、そして住民気質についてインタビューや統計データに基づいて分析した成果をまとめたものである。「生き心地の良い」社会のあり方を考えるきっかけとなるばかりでなく、仮説のたて方から、それを実証していく研究プロセスそのものも興味深い。

東田直樹『跳びはねる思考』(イースト・プレス)

大岡山 : B1F-一般図書 914.6/H

すずかけ台 : 1F-ペリパトス文庫 : 和書 914.6/H

This is a set of short essays and interviews with a young man who suffers severe autism but now is known throughout Japan for his writings, and who has also recently become known in Europe and the USA through the enormous success of a translated volume. The essays give insight into not only the subjective world of a “disabled” person, but also contain many ideas and observations about human society and life that are of relevance for all readers. It is well known that there are students at Titech with Asperger’s syndrome and even borderline autism spectrum disorders. Reading this short work would be of considerable value for all our students, enriching their knowledge of the range of human experience but also deepening their capacity for compassion.

ヘルダー『彫塑』(『世界の名著 38』所収 中央公論社)

大岡山 : B1F-一般図書 080/Se/73 ※ 6月から貸出可になります

人でも建物でも、形あるものを夢中で眺めたり作ったりしたことのある人は、その体験の奥行を著者と語り合ってみよう。物が単なる物以上になる秘密。この本を単純に面白いと思えたら、哲学の大きな流れに立っている。

本江邦夫『中・高校生のための現代美術入門 ●▲■の美しさって何?』(平凡社ライブラリー)

大岡山 : B1F-文庫・新書 080/H/487

大岡山 : B1F-一般図書 723/M ※ 6月から貸出可になります

アートを目の前にして「よくわからないけどなんかいいな」と思ったことはないでしょうか。数学や英語と同様、美術もまた学習しなければなりません。しかしそれは作者名を覚えることではなく、作品の仕組みや成り立ちについて知ることです。入門書だからと言ってあなどるなかれ。平明な文章ながらもアートを理解するための概念が次々と出てきます。理性と感性をフル稼働させて鑑賞する現代美術のスリリングな楽しみがわかる本です。

和辻哲郎『古寺巡礼』(岩波文庫)

大岡山 : B1F-文庫・新書 080/Ia/144 (岩波文庫)

大岡山 : B1F-一般図書 702.1/W (岩波文庫)

大岡山 : B1F-一般図書 121.6/W/2 (和辻哲郎全集)

大岡山 : 本館 1F-事務用書庫 1 W045075

すずかけ台 : 3F-一般図書 702.1/W

和辻哲郎は哲学者。本書は、彼が 20 代ごろ、友人とともに奈良付近の古寺を見物したときの印象記だ。著者自身が言うように、「古美術の研究は自分にはわき道」なのだが、その「わき道」の幅の広さに驚嘆させられる。

●生きて、愛して、旅をする——「人生」って何？

W・T・ガルウェイ、E・ハンゼリック、J・ホートン『インナーゲームオブストレス：内面の障害に打ち勝つ!』姉齒康訳、後藤新弥監修（日刊スポーツ出版社）

大岡山：B1F-一般図書 498.39/G

すずかけ台：3F-一般図書 498.39/G

W. Timothy Gallwey with Edd Hanzelik and John Horton, *The Inner Game of Stress: Outsmart Life's Challenges and Fulfill Your Potential*, New York, Random House, 2009.

1974 年に出版されて以来、同著者の『心で勝つ！インナーゲーム』は様々な分野で最高峰を目指す人たちに愛読されてきた。『インナーゲーム』の理念に 2 人の医師の知識を加えた本で、ストレスに負けない技術を教えてくれる。

ボブ・ディラン『ボブ・ディラン自伝』菅野ヘッケル訳（SB クリエイティブ）

大岡山：B1F-一般図書 767.8/D

すずかけ台：3F-一般図書 767.8/D

ボブ・ディランがノーベル文学賞を受賞したのは、彼の書く歌詞が文学的だったからではない。フォークからロックへ、カントリーからゴスペルへ、更にここ数年はスタンダード・ナンバーを歌ってみたりと、常に表現者としての自らを更新し、再生し続けるその生き様、人生そのものが全ての芸術家の導きとなるような存在なのだ。

高野和明『幽霊人命救助隊』（文春文庫）

大岡山：B1F-一般図書 913.6/Ta

すずかけ台：3F-一般図書 913.6/Ta

自殺を題材にした小説で、自殺して幽霊となった 4 人の主人公が今まさに自殺しようと悩んでいる人を助けるというストーリーだ。生きることは今悩んでいることよりもずっと大切なことと思い知らされる。

辻邦生『生きて愛するために』（中公文庫）

大岡山：B1F-一般図書 914.6/Tu

すずかけ台：3F-一般図書 914.6/Tu

著者は、大病を経たことにより、それまでのロマン派的感性を克服し、地上に存在する森羅万象と積極的に交流し、一体化することによって、生きる喜びを十全に享受すべきだと自らの経験を例に読者に自覚を促す。そして具体的な生の素晴らしさ＝奇跡を語る様々なエッセーを通して、死という虚無に囲まれた、ただ一回限りの地上の生を本気で生きるべきだという覚悟を、達意の文で優しく穏やかに主張する。最終章の三つの啓示は、特に印象深い。

灰谷健次郎『天の瞳』（角川文庫）

大岡山：B1F-一般図書 913.6/H/1a～913.6/H/5 ※6月から貸出可になります

主人公の倫太郎が幼少期から成長する姿を色々な人との関わりを通して描かれている。人との関わりの中で成長すること、人との繋がり大切さを実感する。連作ものだが、是非読んで欲しい。

平田オリザ『わかりあえないことから——コミュニケーション能力とは何か』（講談社現代新書）

大岡山：B1F-一般図書 361.45/H

すずかけ台：1F-ペリパトス文庫：文庫・新書 361.4/H

コミュ障、人見知り、口下手……。色々な表現があるものの、他人との対面での会話が苦手だと思っている人は案外多い。演劇を専門とする著者が、様々な切り口から人と人との相互のやり取りについて掘り下げてくれる。

ジェイムズ・ヒルマン『魂のコード——心のとびらをひらく』鏡リュウジ訳（河出書房新社）

大岡山：B1F-一般図書 146.1/H

すずかけ台：3F-一般図書 146.1/H

James Hillman, *The Soul's Code: In Search of Character and Calling*, New York, Grand Central Publishing, 1996.

ユング派心理学の立場からガンディーやヒトラーなど過去の有名な人物の人格を分析しながら、我々にも偉大な可能性を秘めている「どんぐり」が生まれつきあると主張する。環境にも遺伝にも定められない自分を見つけれられるかも知れない。

ヘルマン・ヘッセ『シッダールタ』高橋健二訳（新潮文庫）

大岡山：B1F-文庫・新書 080/Ie/435（岩波文庫）

大岡山：B1F-一般図書 943.7/H（新潮文庫）

大岡山：B1F-リベラルアーツ資料 943.7/H（新潮文庫）

大岡山：B1F-一般図書 948.78/H/12（ヘルマン・ヘッセ全集）

すずかけ台：2F-リベラルアーツ資料 943.7/H（新潮文庫）

すずかけ台：3F-一般図書 908/Ti/A62

厳しい修行に精進し、悟りを得ようとした主人公が、結局そのモノローグ的限界を知り、むしろ自らの狭隘な自我＝小我の殻を破碎・放下し、瞬間、瞬間新たに生成する開かれた世界をあるがままに受容することを認識し、自己を解放・再生するプロセスが凝縮して語られる。最後の、生命の音楽である、せせらぎによる千の声＝宇宙に遍満する無限のコトバを、ポリフォニー的に響かせる川との交感シーンが圧巻。

星野道夫『旅をする木』（文春文庫）

大岡山：B1F-一般図書 295.3/H

すずかけ台：1F-ペリパトス文庫：文庫・新書 295.3/H

写真家、探検家でもある著者が、アラスカの自然、動物、出逢った人々について静かで温かな言葉で綴った33篇のエッセー集。生命に対する優しく澄んだ深い眼差しと、自身の生き方への思いが随所にちりばめられている。

美馬のゆり『理系女子的生き方のススメ』（岩波ジュニア新書）

大岡山：B1F-一般図書 407/M

すずかけ台：3F-一般図書 407/M

タイトルの「理系女子的」は「リケジョ的」と読みます。「的」がついているのがミソで、これは理系女子だけに向けた本ではありません。「リケジョ的生き方」とは、「自分のやりたいことを見つけて、まわりを巻き込みながら、楽しく生きる生き方」のことであり、男女問いません。好奇心をもって「何か変だな、不思議だな」と感じ、「なぜ？ どうして？」を論理的・分析的に考え、まわりを巻き込みながら「じゃあ、それ、変えてみよう」と行動する。そのような著者の生き方とおして、これからの大学生活にパワーをくれる一冊です。女子学生はもちろん男子学生にもおすすめします。

宮本輝『青が散る』（文春文庫）

大岡山：B1F-一般図書 913.6/M/1, 913.6/M/2

すずかけ台：3F-一般図書 913.6/M/1, 913.6/M/2

主人公が大学時代にテニスに打ち込む姿を描いた青春小説だ。学生時代の恋や友情なども盛り込み青春時代の色々な迷いや想いが描かれている。ひとつのことに打ち込むことの素晴らしさを感じることができる。

オスカー・ワイルドほか『ゲイ短編小説集』（平凡社ライブラリー）

大岡山：B1F-一般図書 933.78/G

大岡山：B1F-文庫・新書 080/H/315

すずかけ台：1F-ペリパトス文庫：文庫・新書 933/W

男性同性愛を題材としたイギリス短編小説のアンソロジー。と言っても、明確に男性同士の性愛が描かれた作品ばかりが収められているわけではない。どれか一篇を読んだ後、監訳者の大橋洋一の解説に目を通して見てほしい。目から鱗が落ちるような体験ができる。同じく平凡社ライブラリーに入っている『レズビアン短編小説集』、『クィア短編小説集』もお薦め。

Albom, Mitch, *Tuesdays with Morrie: An Old Man, a Young Man, and Life's Greatest Lesson*. New York: Anchor Books. 1997.

大岡山 : B1F-一般図書 837.7/A

すずかけ台 : 1F-ペリパトス文庫 : 文庫・新書 837.7/A

Mitch Albom reconnected with his sociology professor Morris (Morrie) Schwartz after seeing him on the television program "Nightline" with Ted Koppel. After learning that Morrie was dying of Amyotrophic Lateral Sclerosis (ALS), Mitch met with Morrie every Tuesday, just as he did when he was a student at Brandeis University. However, this time, Mitch traveled from Michigan to Morrie's house in Massachusetts for a course on "The Meaning of Life." This book recounts their discussions on topics such as love, fear, family, forgiveness, community, and most importantly, death. Morrie, the "Coach," imparted knowledge and wisdom to his student and friend, Mitch: Life boils down to loving each other, engaging in one's community, and living for a purpose. Fame, work, and money are secondary to the vital aspects of life. May we find truth in Morrie's words.

Fritz, Mark, *The Truth About Getting More Done*. Upper Saddle River, New Jersey: FT Press, 2009.

大岡山 : B1F-一般図書 159.4/F

すずかけ台 : 3F-一般図書 159.4/F

There's always so much to do and not enough time! How can we get more done within the allocated timeframe? Do we need to manage our time better? How do we cut out extraneous activities? The author outlines 42 "truths" on how to have a more efficient and effective life, giving us insight into what and where to focus our energy. In short, Mark Fritz tells us to define what success means to us in order to attain a life that we want, creating a visible path for it. Then, believe that you can achieve it.